



世界圖畫

北亞利加

卷一

世界圖畫

K/10.28
2
2



洲の事
 人の別
 八二
 百餘人
 内十分の八
 白
 種あり
 南の方
 黒白相混
 人種あり
 文北
 方魯西亞
 の領分
 ハ蒙古人の
 種あり
 残して顔色
 白から

歐羅巴洲
 亞細亞
 亞細亞
 東の方
 小呂宋
 山



41095

ねむのり

歌羅巴人種



當時歐羅巴洲中の
國々大小四十九王
國の公國も
皇帝國も唯魯西亞

出、字良留河末を
表海少流、甲
笑、第山の麓、黒
海越、市海河
洲利加洲、對、

佛蘭西、地、利、の、三
箇國、の、土、留、古、も
或ハ帝國、の、ふ、こ
とも、は、れ、し、も、他、の
國、ハ、風、俗、も、違、ひ
別、の、お、せ、で、英、吉
利、ハ、王、國、と、し、も
格、別、の、強、國、と、し、も
政、事、の、行、届、き、國、力
の、盛、あ、る、歐、羅、巴

治部、良、留、多、留、の
波、戸、湯、下、西、一、面、河
多、羅、海、河、以、南、北
一、千、里、東、西、一、百、
第、一、内、一、列、あ、四

第一ともいふべし

今の魯西帝
第二世「ルキウス」



今の佛蘭西帝
第三世「ナポレオン」



今の奧地利帝
「フランツ」



十九の國は小強
弱し時勢より由て浮
た沈み魯西亞魯
士奧地利英と佛と
以て國は當時りの出



今の
英吉利女王
「ヴィクトリア」

當時歐羅巴文明

開化世界第一として

相違もなければ

とも往古ハ矢張

の英國文化の廣義
其後を以て五大洲の
末より最も扶植した
文明は人民の
産業を得て富國強

渾池無智速々開け
の進むか及でも中
古ハ封建の世とて
専ら武を重んじ武
士の威光烈しくあ
て町人百姓の難儀
せーことも多か
一々二三百以前
の學問の道精々
行ても人の生計も

兵天の一文の開化の
中心と名をあらわ
し其業人の教の
行届き徳を修
免知は并に文學

繁昌する小従ひ世
の人皆智を貴で力
を悉くを國の政事
も自然にその邊不
基きて次第に今時
の有様に至るにあ
る今うゝ渾池無
知の風俗よを文明
開化に至るまで次
第にその趣を顯し

技藝美を要し
郡鄙の差別あり
法方々建ち學問
幾多あり教知
彼の産業のおうて

たる繪國を西洋の
地理書に載して
示すこと左の如し
此繪を見て世の中
の大業を知るべし



彼商賣の繁盛
兵備整ひ武器足
る世界に誇る者
平世より源を
一歩に新なるもの



の枝は咲けり花
あはれに花見
美しき本やま枝
をいなり一才
急ぐを道



○英吉利の本國ハ
 さうや大國なり
 らる九日本國位
 のあまども遠方
 飛地多く五大洲

歩もくは行路共
 一山も西洋の
 多る花をらん
 英吉利を佛菜西
 國北の海横に

中興大利の
 うやも英吉利の領
 分らざれん
 ことを集むる英
 一里四方か
 百萬坪大抵世界
 廣さの六分
 其廣大西
 分らざる廣
 分は住ふ人の数

水嶋の國格
 榮阿再蘭英倫
 三王を人々
 國威名耀
 王人氏二年九

億八千三百萬人他
 國無比類あり唯文
 那の人別は及むざ
 るう
 論頌の外あり大都
 會の數多しといふ
 るふふるびるみん
 とむ蘇格蘭の都は
 ちんなるふ阿ふ
 蘭の都はどぶとん

百工技藝牧田畑産
 物遺る所あり中
 多し鉄石炭並
 氣若械の源を用
 事ぬ無事産物

等何れも繁昌ある
 市中あり



極し勇生し水を
 渡りて蒸氣船
 里れ波は恐る陸
 北は走る蒸氣車
 は人小翼の新産

英吉利ハ世界第一
高貴繁昌の國あり
諸國の船のやへ
て港の賑ひさハ
いふまでもなく國
中の往來も甚だ便
利あり近來蒸氣船
ハ珍らからざると
も日本人のいふ
だ見ぬ蒸氣車とい

飛り疾に傳信
機瞬く暇さるる
告々急飛御
中外の新寸を
多小聞と名傳ふ

ふもつゆをこもハ
馬も牛も用ひを唯
蒸氣の仕掛ふて走
る車あり其疾きと
と實人の目を驚
かす大抵一時ハ二
十里も走るや東
海道五十三驛あり
ハ一昼夜も往還
する又傳信機と

の都會は中心を延
武須河畔の論
府廣に界を以
るに第一の大都
今亦每二里南北を

いふものやうとき
 八百里も千里も針
 金を引張てその両
 端小ぶるきとる
 いふものやう仕裁を
 設け聯く間小敷十
 里の遠方へ相圖一
 て談話のや来る趣
 向あり瓦斯とハ石
 炭を蒸焼のいて其

二里紅間、主修、
 軒端、柳の、
 並、
 地、
 十、
 万、
 生、
 来、
 群、
 衆、
 雲、

氣を引き油蠟燭の
 代小用るものあり
 但一此等う仕裁ハ
 英吉利のころから
 西洋諸國皆同様
 て人の便利を達
 夜行する小提燈を
 持たる荷物運ぶ
 馬の背を用ひる意
 用り文通るとして

成、
 一、
 夜、
 人、
 知、
 馬、
 車、
 以、
 聲、

革鞋をてひて道中
を馳るものなり
何事も智慧くらへ
の世の中あり

蒸氣車
傳信機



の海の浪も音も
港の聲も美玉乃
出た遠望は森林木
の葉をなみり河
蒸氣河の架た鉄

英吉利の海軍ハ世
界第一あり軍艦の
數千艘あり領分
の地ハ備るハ勿論
始終外國へも出張
自國の人を守護し
て他の侮を防ぐ故
ハ世界中交易り行
てゐる場所ハハ
英人の威光最も盛

橋は走る蒸氣車
矢の如く今朝見
友は夕より千里隔
旅の急ぎ旅路
心せに悉くはる

○佛蘭西ハ歐羅巴
中の都ともいふべ
き真中かて土地も
よく開け一体花美
かる風俗よく人々
才氣鋭くして學問
を勉め發明多し巴
理斯の大學校として
ハ世界に並ぶべき學

いすはる白と名跡お
くん論頃成別
と南堂宇宙の際
は渡九里作わ
とととと

問所かて大先生方
の集る處あり



佛蘭西國西の界
は西班牙東を白耳
義瑞西を西を白
十里南北に二
余里南の方北中

虎留鹿の嶋ハ佛殿
西皇帝第一世ハ不
もせんハ誕生セ
由來ハ一評判高
奈保禮恩ハもと身
分ハあき人あ
ク十七百年代ハ末
寛政ハ佛蘭西ハ
大乱起リテセツ
用ヒラミテ陸軍ハ

海ノ岩近ハ廣ク鹿
ハ今ハ土地ノ廣大
魯西無二ハ帝位
ノ國ハ人口七百萬
ノ府巴里斯ハ人

隊長トシテ生來
智勇兼備ハ英雄ハ
年二十六才ハ時
伊太里を攻取テ翌
年ハ埃地利ハ勝チ
向ハ所天下ハ敵ハ
一十八百年即チ
我文化元年佛蘭西
帝ハ位ハ即チ威名
を歐羅巴洲中ハ

別ハ薩福頓ニ及
市中ハ家の義
美ハハ又ハ義
紅ハハ西洋諸
ハハ類ハハ國ハ

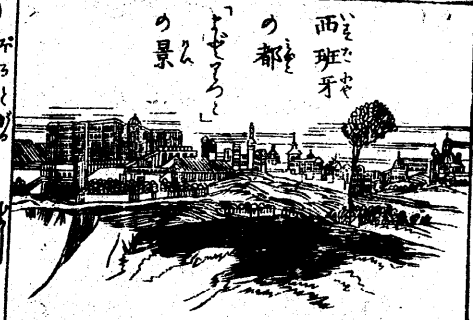
類不當で第三世が
不きせんといふ此
君も英雄の名譽に
て近來ハ類ハ海陸
軍を盛ホ一て歐羅
巴諸國とホこれぞ
恐るといふ
○西班牙ハ其む
一強大なる國にて
世界中ハ領分も多

大小各般陸の兵士を五
十萬軍器我彼整
て進退の正
きは西洋一ハ兵
と名をいふを得

かて一ハ近來ハ衰
へて學術と云ハ繁
昌せど廣き國中ハ
蒸氣車ハ路も甚ど
少一元來此國の人
ハ骨格も一ハ勇氣
と云れども兎角物
事ハ勤る心ハ唯
氣位のと高く一
活計ハ道を勵む

理なり
佛蘭西ハ西と南と
西班牙國ハ都を
麻士律ハ生ハ石
高きハ人

頼母一からぬ風俗



○葡萄牙も昔日ハ

性質慇懃勤心
昔々きは稼の道
はお酒の産物
多し又明井化
うも様以美を佛

盛あろ國小て専ら
航海を勤めて十回
百九十七年即ち我
明應六年歐羅巴
と喜望峯を廻て印
度へ渡る道筋を見
出せしも葡萄牙の
人をもてては
いふ航海者あり
本へ外國人の来を

小較るる遠敷
等以下人西
廻る葡萄牙田
楠の河の河口に
一港里次あり

ハ天文十一年を
始とすこれより
でをびんとといふ
葡萄牙の人も

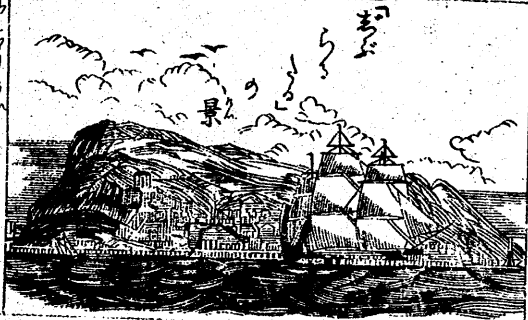


國主任石の都なり
此地の風俗盛衰を
鄰の玉に異なり
又学枝藝の流り
も今昔のちと変

○地中海のハ治
部良留多留の瀬戸
一方かきとこり
瀬戸よて潮の流込
わつてかて外に出
ることふ不思議
ある場所なり英人
のあつた臺場を築
て狭き一方口を守
るハ衆の口をわて

目次
里須盆の港を
立戻る南東より
少々は潮の流矢れ

其紐を持つが如し



地中海ハハと云ふ

治部良苗多留の
瀬戸口南北僅六
七、南の、何氷利
加洲北に對する歐羅
巴、大海の玉環に

るたの外の又丸
太といふ嶋に
これり英領あり其
臺場の洪大ハお
らるたの劣らど
英人ハ此二箇所の
要害を占て地中海
の威を振へる本
は喉押て背を打つ
とハこのらとあり

部良苗多留の要害
地中海の喉頭地
理天陰小徑に築立
た。砦臺は、第一不
動の大盤石喉押

九太の嶋の景



○獅子里の伊太里
う領あり大山
江土奈山といふ

小月氏打つ、美吉利
人の権勢を地中
海に車轉たし恐
北鹿ふぬものほを
一際戸を廻るは

高さ一萬尺余海よ
望み見るべし
羅巴の名山あり



獅子里嶋の景
江土奈山

馬里留嶋東方の
猿路に屋椰子里越
伊右里國細長
くも靴し玉の杖
を擬し椰子里嶋ハ

伊太里の南の方
 山阪多く北の方
 平地多し氣候
 南ハ温たし北
 北ハ寒し國中
 人別二十萬人
 都
 名高き學問所
 元來伊太里ハ
 文國ハて古代

新先以指の度ふ
 ありし人國の南
 三百里少し
 河の邊山南ハ海
 突出し可成利

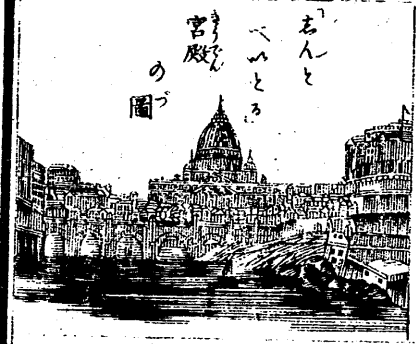
書画類多しといふ



法王の領分も近來
 大に衰へたこと

土地味紀えり
 天氣快く吹ふ
 山の色彩も秋
 水の聲も山と川
 越え矢の無鉄の如風

も名所舊跡多くあるとべいといふあといへる宮殿ハ目ど驚くも不足なり

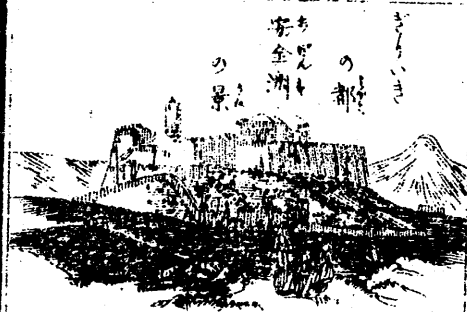


東京の法方いやくく山田は殖る桑の苗氏の家を蘭人西海岸ハ羅馬飲法主所字ハ雲化とい

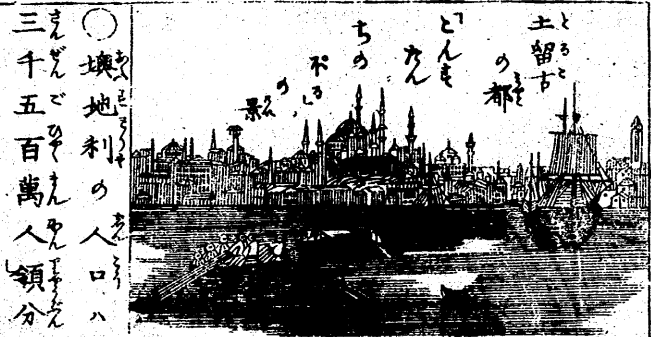
○希臘ハ土留古の支配とて小堪へむして恢復を謀り他國の人を同情相憐としてを助け十八百二十年の頃より數年の苦戦して遂に舊の獨立國を復した

名所舊跡といひ伊右里國ハ南より東に渡り希臘より由來をいふに

て國中の人別百三
十萬人都の名と安
全洲といふ



今、風俗衰へ、
昔の操りありて
北の隣、土苗古
人情粗く、一
大國人口こそ二百万



東、玉の東西ありて
東を亜細亞を押
傾く、本は政府を
歐羅巴に帝の威
権限あり、有目有

○城地利の人口ハ
三千五百萬人領分

廣く由來久しき
 帝位の國あり古き
 翻譯書ハ獨逸帝と
 記したるハ即ち墳
 地利帝のことあり
 昔日ハ國民の教行
 届き中ぐう次第ハ
 衰へんとする鬼へ
 近來ハ又類レハ文
 學の世話ハ王て學

友朽まへて海を
 枕る意風流初淺
 少く威徳く
 百多あは生民戮
 慄くも孝あり

問所あども多し

墳地利

の都

宇陰奈

の景



○普魯士ハ歐羅巴
 五大國の一ハて

土留吉北の墳地
 利魯佛と立一帝
 國本々灌く駟八部
 の河以畔乃字陰奈
 ハ皇帝臨御の大都

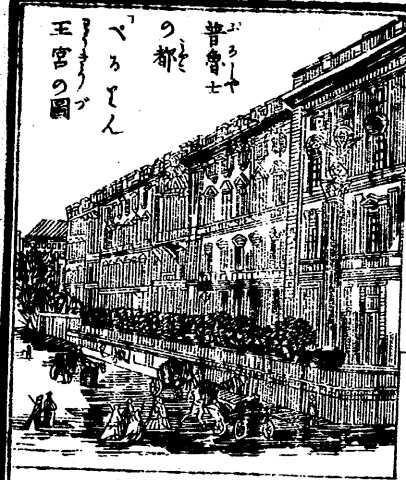
文武の盛なること
至るて盡せしむ
ふべし國中の下人
水飲百姓に至るも
でも字を知らざる
者なく訓練の歩法
を知らざる者あり
去る慶應二年甲子
ハ填地利と戦て勝
利を取其時敵ハ

會國一主と産物
を穀菓實等麻葡
萄金銀銅鉄多し
と地より出するは
土國人口一萬八
百萬人

一味の小國むり
ふるを始り六七箇
國を滅して其地を
并せ元來一十八百
萬の人口増して二
千二百萬余の數ハ
上をて斯る大戦争
お日を費したるハ
僅か五十日をか
あり當時西洋お

民の教の行所に貴
賤男女の差別あり
を以て知る者ハ
文備て武備起
兵士三十一萬人

こを七七日の戦
と唱へて古と違ひ
何事も早くす
し今の世の中あり



加の孫多勢之四
隣の星と立水
魔はけりまき
南北方の小國
宇多天保留富

普魯士
の都
べるてん
王宮の圖

○瑞西の都を
んといふ時計細
の名所あり此國ハ
山國おて人皆質素
儉約且勇氣あり故
小國あきども外
國の輕蔑を受けを

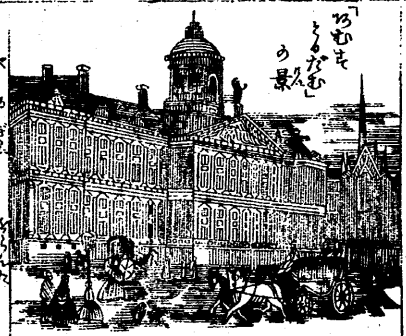


馬和里屋等西
堺の横濱河
源をきくは山
高き瑞西國の政
事ハ共和政小

○和蘭の人口ハ僅
 三三百六十萬
 とも諸方ハ飛地の
 領分多し國の人皆
 藝學を勉め殊に海
 軍ハ此國の得意
 都を「ワグ」とい
 市中奇麗あま
 繁花あらむ國中
 一の交易場ハ「ワグ」

此の國ハ一様
 其教の好む
 工技藝手
 化の海に被る
 陸の海に被る
 乃

港あり
 是とるだむといふ



○白耳義ハ和蘭よ
 其分をたる國あり

河底以和蘭は至
 中ニ山見ぬ
 平地ハ河多
 患は来水ハ人
 後乃巧に諸方

ども全体の土地柄
 ハ和蘭よりもよく
 且國民農業の出精
 して少くも不毛の
 地あり鉄石炭も領
 分中より出製造物
 多し小國あれども
 英吉利の風なり
 昔日建國ハ名高
 き強國にて今も至

築く堤塘田畑の
 業し如精し如花
 の産物少なし諸國
 渡るも交易人れ
 衣食も饒なり西

るを諸方へ飛地
 の領分多し元治元
 子年日耳曼と戦ひ
 見苦しからぬよふ
 防禦したるも衆
 寡敵せむ遂に和陸
 して雨の澤あるも
 ちん近傍の地を失
 ひ國の人別五十萬
 人を減たり

の降る白耳義
 と和柔の土地を
 主風俗も異なり
 農も畜も生産力
 清くも人

骨片 渡辺 遊園 景



○瑞典航留英ハ一
政府の支配あり

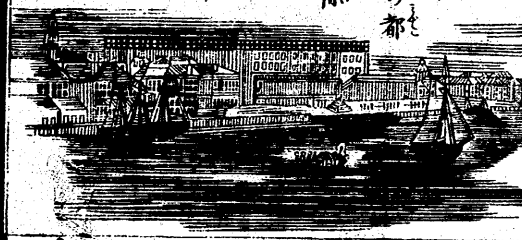
情々國ハ富強
白耳義者其
方ハ先連
國都ハ骨片波

も兩國自から其法
律ハ瑞典王ハ毎
年數箇月の間必
能留英ハ行て其國
事を治るを例と
瑞典ハハ蒸氣車
路少ハ旅行ハ小
ハ道中筋の百姓
馬を出させ三四
里ハの宿次ハ

と王ハ可交易場
波片波ハ瑞典
西ハ隣ハ能留英
東ハの多王ハ一
一王ハ西の都ハ難

人々を乗せ荷物を送り
るに國法とも

瑞典の都
須德保
留武
王宮の
圖



須知屋奈東ハ須德
保留武ト其ノ方
ノ數不義地不
ノ人々今も其地は乃
數百二十萬北地

○二百年以前
ハ魯西亞ノ國
て且北方の田舎國
おもハ學問も開け
る人氣暴くして殺
伐ある風俗あり
十六百年代の末
元禄年平土留帝と
ハへる英明の君出
て一時小國を改革

の氣候寒くし
閑けし北地稀
カレと五穀菜実
を登る山より出
金額れ中ノ鉄は

一 英佛和蘭等の如き文明の國の風からひ學校を設け海陸軍を起て内を守て外を攻め歐羅巴諸國と並び立つる一 大國の基を開き今日に至るまで威名を世界中に轟

極ありて世界を振るる
名ありて
次は保苗武の港
より江を結なれ真
東の帝國魯西の

かせ

平土留帝



魯西亞の都ハもと
いそこうといふ處
ありて平土留帝
の時ハ北方の海岸

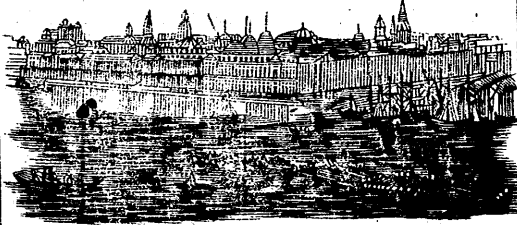
都なり新都平土
苗保苗府なり抑魯
西亞の領ハ細亞
米利加歐羅巴ニ
と跨りて東西ニ九百

へ新小都を開きこ
多成平土留保府
と名けり奈和とい
ふ河の畔小川にて
當時ハ歐羅巴洲中
のも数少あき大都
會しるも里但一寒
氣ハ甚とだく冬
の間ハ河氷水も
て海すても氷の上

余里南はん一里世
界れ大化を大こけ
一を有る一政府生殺
と奪り権柄を握るは
皇帝一人の手に余

を往來とべー

ろーヤ
の都
べい
がふ
の景



魯西亞ハ他の歐羅

あれ人氏の上もまた
るをこれ君四海の波
と静る鎮る所世
の治り乱れ忘れぬ
終のときふ又武の教

巴諸國と違ひ立君
獨裁といふ政事の
立方かて國帝一人
の思ひ通を勝手か
事を捌く風う故
お下々の情合上か
通せしめて國中
不平を抱く者多し
さきども其國柄北
方小偏して外國の

懈たゞり兵士の教
を千萬國に依たり
設けたるハ八九百の學
校ふたふたあり
古くより習ふ藝

敵を受ふこと少
く且其武備格別
よく行届きたとい
外敵を受るも敗北
せしことあり既に
安政元年英佛の大
兵黒海より入る
不毛と不毛といふ
處を攻めしこと
是とも敵味方五分

物ハ五穀獸類等
烟草今良田山林
金銀銅鉄夥し

の勝敗ありといふ



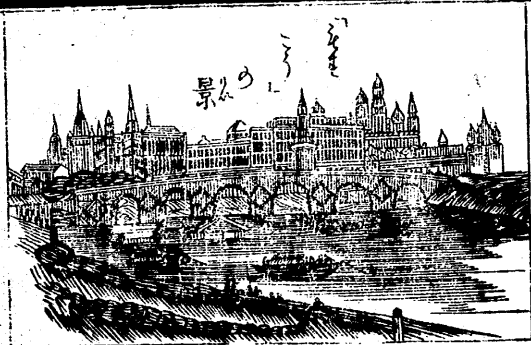
お交易れ銀不昌ハ英
無法國及及ぬ内
不動る農の業五ノ力
は日増月長
城の北址を守て南

の舊都きよとハ魯西ろ亞あ
る不ふの東南百
七十里しちじりをかてり趣
おろり蒸氣車じょうきしや小乗
一日いちにちかて達たつまべ
随分ずいぶん繁華はんかある都
會かいあり千八百十二
年ねんなきをんの大
共攻入きこういるとき魯

改元西の遠く黒海
より表海ひょうかいの途みちの
まゝ山やま支那しなれ
満州まんしゅうも半はんを魯西
亞あより并ならせし朝

人ハ自カから市中を
 焼拂ひたとも其
 後ト普請して却
 て以前より奇麗
 あり市中の寺院多
 く名代の鐘の高
 さ二丈一尺重さ千
 六百とん即ち我四
 十三萬三千六百貫
 目米おもと一萬

鮮國以堺より勢
 せり双頭の鷲の旗
 彩賜より其成切を
 多しぬは雪ふれ時
 城望む龍の行末

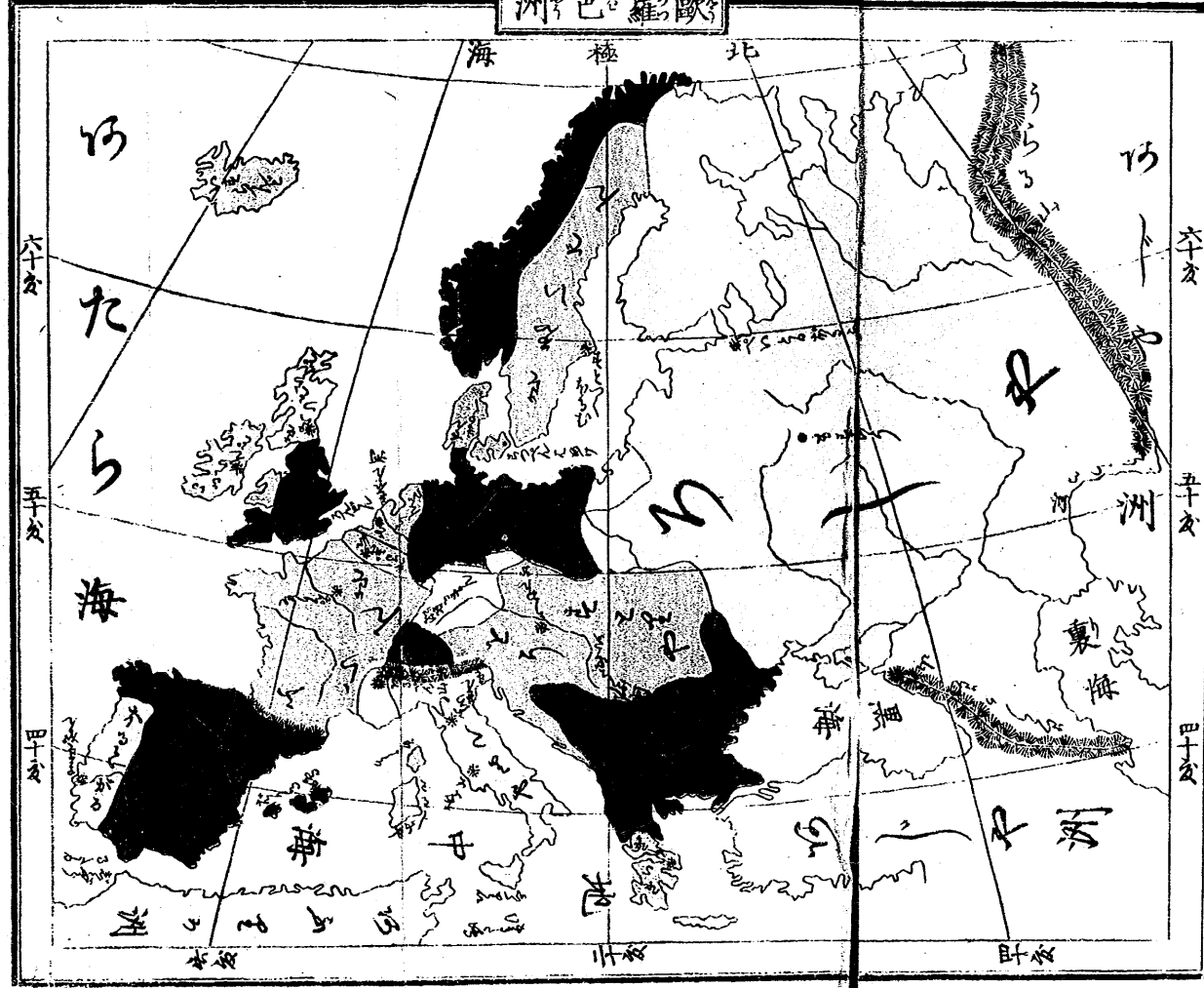


八百石余の重さあり

のま様を人よりま
 りては人を知者乃
 見ん難しん



洲巴羅歐



古論武子



北亞米利加の事
千四百年代の未利
時伊太里の古論
武士といふ人
半毛續く貧しき

北亞米利加洲

亞米利加は西に在る

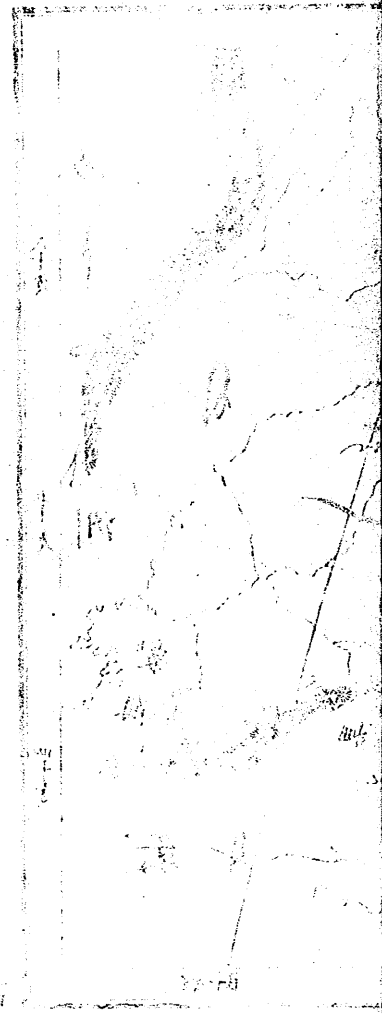
新界に在る

横たふ北に馬良

尾岬より南の瀬

世界図説巻四

世界図説巻四



家の子ありて航
海の術を心得其志
を所人から考ふる
獨り自から考ふる
小世界の狀圓さ
へ東方方小印度
どの土地は西
の方ふも必る地方
あるべしと説を
立西班牙の王が説

戸の麻淡蘭一長
さ四百二十里
みまろ二天海北理
の續ハ已奈馬ナ
地峡の至二十餘里

さ王妃の助を以て
船三艘を仕立西
方をさして乗出せ
小果して陸地を
發明したる頃八十
四百九十二年即ち
我明應元年ありと
をより歐羅巴諸國
の人類の往來して
地面を見出し

東のくろ河多羅
海一廻を八百里
海は西より日本
の北より利加波
海一厚保留屋

見出さし随ひ本國
人々を移して新
地を開闢し得る所
の利潤も多し土地
の模様も由り地理
の學者ハことを南
北二大洲にかち又
亞細亞阿非利加歐
羅巴を舊世界とい
ひ亞米利加を新世

北亞米利加の西の隅
あり北亞細亞領
の大洋あり北
あり北亞細亞領
の大洋あり北
あり北亞細亞領
の大洋あり北

界もいふ



○魯西亞領の亞米
利加ハ唯土地の廣

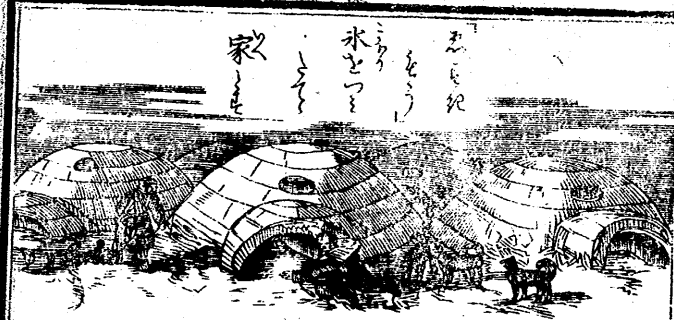
北亞米利加の西の隅
あり北亞細亞領
の大洋あり北
あり北亞細亞領
の大洋あり北
あり北亞細亞領
の大洋あり北

きつゝもて産物も
少ふ一慶應三卯年
合衆國の政府七百
二十五萬どるらる
の金を以て此土地
を殖らるゝ買取を當
時ハ合衆國の領分
とありて都て亞米
利加之北方に居住
する土人ハあるま

具理陰蘭出伊須
蘭出乃本王
北極七紀寒帶
以て東と稱ふ秋
雪や水の古を煙

とてふ人種ハ
て身の長五尺小足
らる通用の文字も
あゝ人物甚も愚
り寒國のことか
とバ穴藏に住居
て衣食共小きたふ
一或ハ氷を層立て
穴藏とふたりも
り

吹雪り噴火山実ふ
極一紀系色なり
英吉利領ハ亞米利
加ハ北極海の邊
南ハ鄰ハ合衆國



北亞米利加に云々
 一、其一分は土地
 多しと北は不毛れ
 荒れ地なり人民僅十
 八萬を云々云々

又いんちやんといふ人種なり即ち亞米利加の土人種とハとのことあり昔ころんぶが亞米利加を見出せし前此國に住へる者にて開闢以來の亞米利加人あそと

多し無知又盲の野
 氏は南東は金田
 の地氣候次第小利
 多し人民多く好む
 みるは境は湖水

其性質殺伐ハ
 文字を知らざる
 ため一家にあ
 山阪を徘徊し
 以て獸を殺し
 喰ひ皮を著て
 誰を渡る者あ
 羅巴人の亞米
 へ移す此人
 種を追拂ひ都
 會の

主流河は先
 海河の畔の
 築建た、砦
 金城湯池の
 其の傍に亞
 米利加



地へ出ると許さ
 追々其人の數も減
 少する

の治部良苗多
 少人々を河の
 瀬門出里苗を
 中の路に再
 交易場西より

○金田の地ハ近來益々繁昌して諸國の學問所も多し往來の便利ハ熱氣車並ハ湖水ハ浮べる熱氣船ハ商賣の道ハ甚と盛なり西洋人の説ハ此地へ行ハ英吉利の手を離れて獨立も

小田羽河よりみまろ小田羽府を英吉利國の代友所北北極西方ハ太平洋の濱より北の方何



新嘉坡の場

る又ハ合衆國へ歸して一の政府と

多羅海新見の國
 果より一より
 握、從奉行北亞米
 利加里英吉利
 威勢以振ふ根本



金田の
都府
小田府
政事堂
の果
○新小田の如
く亞米利加洲を見
出き後ハ歐羅巴

金田地所領
なり
吾夫のふと地廣
く平土の濱に民多
し住の如くぬ生

の諸國の家を移
一三百年で
間ハ人別ハ追々増
一今の合衆國の東
海岸の地ハ英吉利
の領分ハて人の産
業も繁昌もる不
本國の政府より運
上を取上げんとせ
一小領分の町人百

吾輩は貧富強弱
賢不肖を以て起る
事ハ耳目鼻口
四肢の官是非曲直
を分別し善の境

姓の言分不億
兆の人民天地の間
生も貧富強弱の
別こそやたらん男ハ
男一人あり女ハ女
一人あり他人の妨
を為さずもハ亦他
人ハ妨げらるる
の理あり今此地ハ
居て銘々の家業を

本心と此とすむ
能く一種無類万物
の靈あり男と女と性
を古不易の一大義
と為す方ハ方ハ

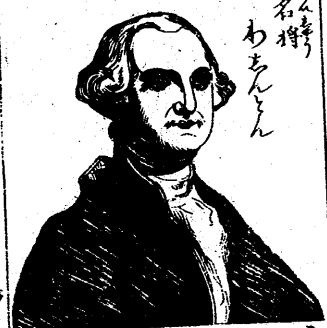
管々銘々共の甲合
せふて國中の取締
も行届き本國の世
話を受けむとも自
ら一國を治るた
けの覺悟ある愚へ
政府より色々の命
を下し謂もかく運
上を取立んとハ以
らざる世話を為し

役仕人の熱誠候
我自由天の道理
基國報
丹心誠意

て下々の家業を妨
ぐるのそあらざ人
の物を奪取て上
用を達せんとする
不埒の舉動ありた
とひ國王政府の命
たりともこれを承
知し難しとして跡々
以て獨立の旗揚げ
を定めて頃八十七

此不羈獨立の勢を
留めんとす
北亞米利加の十三州
は乃本國の政府より
威光を以て示す

百七十五年即ち我
安永四年あり



英の本國より軍
勢を差向け威光を
以てこれを鎮めん

名をたれ黄税
と告げん
便あり民備
天然の自由を
以て威光を以て示す

とまきども垂米利
加人八固より必死
不覺悟定り老若男
女獨立の師と聞て
悦まざる者あく町
人ハ天秤棒を持て
市より起て百姓ハ
鉏鋤を携へて畑よ
て駈出さずどく勢
おまバ中々無便の

遺恨多し遺恨多し
恨より老を孝に頼む
所ハ天地の理に在る
お水々年々秋十
三海に代人軍士

扱や来む千七百七
十五年四月十八日
まきーんとんと
ふ題の小戦ふて始
て血と流し五月
ハぶんけろ山不戦
争の事こまう一
國の騒乱とまうわ
ーんとんを推して
惣大将と為し翌年

以連判状世界一示
を檄文の英吉利王
の罪状責め自し
建し一合衆國武
器兵糧の乏し民

七月四日ハ四十
八士獨立の機文を
布告して人氣益振
ひ昼夜の戦争或ハ
克ち或ハ負け十辛
万苦其有様ハ華小
盡し難し人の誠心
天の恩恵遂ハ勝利
と得て英吉利と和
睦結び國政を定て

数多の敵を海を越
え新軍を引智（先
有）猛虎飛龍の
勢を松を揺るぬ
鉄石の如く海を揺る

共和政府を建てお
ゑんとんを大統領
の職を任し一の大
國の基を開きたり



國の死を免れ生命
得自由を理屈し
生れん李國を報
死にん一死決
七年の末の月日

此慶米利加ふて
帥の起て一誰一
人として頭取もあ
く國中の人一般に
獨立を望み婦人小
児に至るも其
氣象を備へたるこ
とあれば英吉利よ
てさへ向たる官軍
の勢ふても免さる

以攻守知勇義の名
を子歳一涸る血
河骨の山七十五
の報難を消し去る
大勝利目如度なり

一ことなる一既
小戦争の起る以前
のことあり不ふと
んといふ處ふて
折しも冬の日の
子供大勢ふて雪を
集り家を作て連磨
をこしらへて
て戯れ居たり
官軍の歩兵来り

「英吉利」と和睦結
び新條約を束縛
き政を体あり主君
あり天は天下れ
下なり四年交代乃

何心おくこを効
げーこと度々あり
バ子供等大に
慣ふて英吉利の
將軍にのの外や
る所を待受け持
軍へ訴ること
と呼びけり小將軍
は笑ひ汝等も親
小謀交を教へらる

大統領上院の院の評
議院一國中の便不
便議り定免一に律
威行を極
以事進むる富る

く爰へ来りーや
いハ子供等ハ
くも氣色なく將
軍とふらつけ我
共ハ人の指圖受
けて参上者小
ら今日將軍へ訴
ふる余の義から
ぞ我等嘗て官軍
對一失禮せー覺

工製作商賣は英吉
利王と肩をく文教
技藝學校を佛蘭西
國に有る地
は産物ハ穀穀類

のらざるお歩兵の
人々謂もあく我等
の自から作て一季
の連繫を踏崩し地
の氷を破て人の樂
を妨けし由る其
乱暴を止むと
笑て答へを却て我
等を誹天へあど
唱へ更へ取合を差

綿煙そ葡萄菜実
甘露金根銅公鉄石
炭ん世間のり用
物て不足なり衣
食を逐ふ人其情求

圖後の人へ告せど
も矢張同様の挨拶
の昨日も雪の家
を毀らしこと既お
三度お及て最甲
其終さし置き難く
思ふも付此上ハ唯
大將軍の裁判を仰
ぐのそと恐も憚り
所もあく辨説明ら

先得易き活計哉
たつぬる人ハ累す
日よ多き月増し
人口云々有得る新
北并費おつて人

か小述之けとバザ
 以しもその氣象小
 感心し流石亞米利
 加之自由の風小俗
 一たる小兒等勇ま
 一さ心かあ以後不
 埒ある歩兵ならハ
 必も仕置を施すと
 てその舉動と譽て
 返せしとの話なり

漸く利く國堺東
 西一ふ三百里北と南
 一七百里十三海
 一今年今といふ乃教之
 倍一三千六州並



合衆國の東海岸小
 ハ八世留久の外ハ

立つる乃中心を和
 新頓府内一併
 政事堂高さ二百八
 十尺御門樓閣巍
 とと結構なり

不ふもとんふひら
 であるやざちり
 ふる等數多の都會
 以て文學技藝盛ふ
 繁昌の模倣ハ興吉
 利佛蘭西ハ興吉
 南の諸州ハ米
 麥綿烟草等の産物
 多し都て東北諸州

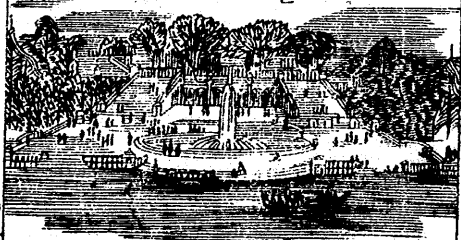
と海を西に暮
 獨立一威を
 り大玉の議政為
 政の源をいふ居
 大を道理なり和
 新



ハ高賣と勉め南方
 農業ハ励とふ

頼も北の方百
 厚く入る留人
 口んる第中一
 乃交易場を
 美吉利の論政府

市街の遊園地



かゝるおやの金
山ハ固ク世界
あて此合衆國

せん付佛たり西
海岸の屋
保留仁屋八重の里
永三年事始す
海を建てる

の領分ハ金銀銅
鉄のやる甚多
何れも蒸氣仕
道具を用て巧
盡日本金山
ハ大異ある



金山の穴の模様

人戸海に勢強
たより稼を金山
業のなれ牧田
畑石の職業
忙しく大平

○女喜志古ハハ
西班牙の領分あり
一ヶ千八百二十一
年獨立して合衆政
府を建てて千八百
六十四年佛蘭西小
政滅さし佛の差國
へて「まさ」をヤ
んといふ人を立て
國帝とせしう僅

海ノ海岸より望
むと森を誇るを
女喜志古の北の界
合衆國南東一横
女喜志古の湾

二年ハ一ノ廣應三
卯年國中又乱して
新帝を敬したる



加ハ界ハ南北
ハ八百里東西三百
二十里ハ只石字万
土地ハ生るる産

先きーにり出る
 金類の中お最も多
 さハ銀あり東洋諸
 國へ其通用銀を積
 むー日本おて洋銀
 と唱ふるものも矢
 張めきーとのどろ
 りさかり
 りき志古の西海岸
 小赤保留古とてよ

物を衣食に用
 不足なり用ひてお
 す金と銀世界中
 二種より一富利
 用ひ源ハ汲とん竭



き港り飛脚船
 どハ必ぞり一
 寄る

如調を北政府の
 基因より民の信
 仰淺く志あり
 政治の流るる
 國に乱民乃并此

○中亞米利かの諸
國も元ハ西班牙の
領分あり一ツ千ハ
百二十一年本國の
手を離して暫くの
間女喜志古ハ與
二年を経て獨り
の政府とあり其後
又各國相分して各
合衆政府を建て

「**追々**」
「**女喜志古のみ**」
「**つく數箇國ハ中亞**」
「**米利かの地**」
「**授自立の体**」

産物ハ金銀銅鉄材
木藥種多
○古論武子ハ
利加を發明せ
前歐羅巴人の往來
して地理風俗を知
る者更ハ唯其本國
の近傍のみならず
蘭上阿非利加州の
北岸小亞細亞諸火

「**刻**」
「**各守**」
「**田力**」
「**は**」
「**以**」

屋の海岸へ遠方
 ハ後印度の即ち
 左の圖中ハ白き處
 あり其外ハ更ハ知
 らざる此世界ハ圓
 きものなりとの理
 を信じて西の方ハ
 も陸地らんと思ひ
 案ハ違ふことを見
 出たりたる故

北邊の行末の治乱
 つねに國々を中
 亞米利加の東方ハ
 群島ハ西印度印
 度と所縁なり嶋を

小猿和土留の嶋を
 見ても印度の地續
 と思ひしことある
 べし其時島人の驚
 一方から老若男
 女演邊ハ集て三艘
 の船ハ帆を揚
 を見てこハ白き翼
 を廣げたる大仙物
 ありと思ひし

西の印度と名けし
 昔明應初年の迄
 世に存し高麗古論
 武子西の世界ハ様
 々記述し見えし



猿和土留亞米利加
 大平海何んは
 夢を知らぬ人
 を印度の端と認め

西印度の島の数九
 一十の氣候多
 ハたつりあど
 其ハ熱地味肥
 産物多一人合
 せて四百萬人此内
 六分の一ハ歐羅巴
 の人種ふて其余ハ
 黒人なり又黒白相
 混したるものあり

人々告げても由來
 西に印度の名
 有る天竺明人れ
 其の所共傳

地ハもと西班牙の
 領分あり一ヶ所ハ
 獨立國にて皇帝ハ
 黑人なり 耶麻伊嘉
 ハ英吉利領あり又
 場ハ西印度諸島の
 中にて最も大いハ
 王の都ヲ築 耶麻
 と云ふ西班牙とモ
 を領ス馬演ハ小サ

了千萬歳ニ場ノ數
 の多ク中一昔ハ
 年ノ慣水ノ名
 擇地 耶麻伊嘉
 場馬演時候 熟

島の一所にて其
 數五百あり 耶麻
 留も其島あり



此邊の芭蕉ハ實
 を結ビ又ハんかつ

冬知れん土地の産物
 豊トモ衣食足トモ
 木の皮 砂糖骨
 冰綿 烟を擇地ニ多
 記芭蕉の果久場

ぶるといふものの
 何れも其味より

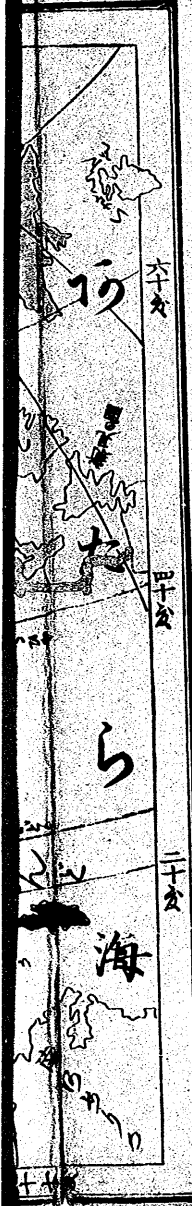


芭蕉



松の
 松子の如し

製する春烟を
 奈めぬ箱の
 世界各類の石
 子



北亞米加利洲

